

千代鈴 初優勝

紙相撲新聞

第154回本場所
十日目、千秋楽号

編集・発行
日本紙相撲協会

春日根部屋として四十年ぶり

場所後に満場一致で大関推挙

〔第百五十四回本場所十日目、千秋楽〕

12月25日のクリスマスと千秋楽が開催され、混戦を最後に制したのは関脇千代鈴だった。

十日目を終えて8勝2敗とした関脇千代鈴と前頭七枚目の鬼ヶ嶽が千秋楽に優勝を賭けて直接対戦し、千代鈴が勝って初優勝を飾った。また、場所後



↑勝った方が優勝という千代鈴と鬼ヶ嶽の一番。勝てば初優勝と大関昇進がかかった千代鈴の気迫が圧倒し、一気の寄りで鬼ヶ嶽を圧倒した。

に招集された理事会にて、千代鈴が満場一致で大関に推挙された。

三賞は、殊勲賞が若ノ嶋、美空富士の2横綱に勝った関脇白閃光が3回目の受賞、敢闘賞は千秋楽に優勝を賭けて対戦した千代鈴（2回目）と鬼ヶ嶽（3回目）がダブル受賞、技能賞は千代鈴が3回目の受賞となった。

九日目を終えて関脇千代鈴と平幕の鬼ヶ嶽が2敗で優勝争いの先頭に立ち、これを3敗で横綱若ノ嶋、美空富士ら13人が追うという大混戦となっていた。先頭を走る千代鈴と鬼ヶ嶽が3敗となれば、かなりの人数での優勝決定戦となるのは間違いないという大混戦の

千代鈴は1差で追う3敗の白閃光との関脇同士の対戦となった。白閃光は3連敗のスタートとなったが、四日目にから6連勝、横綱若ノ嶋、美空富士、大関佐賀ノ海、鬼ヶ嶽に勝って勢いに乗っている。「お客さんは3敗での優勝決定戦になることを期待してるよ。」と紙相撲ファンをも味方につけてこの一番に勝つてやろうと意気込む磯ノ海親方。「白閃光としても来場所以降の再大関昇進に大事なためには大事な一番

中で迎えた十日目。

優勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞	幕下	三段目	序二段	序の口	優勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞
千代鈴	白閃光	千代鈴	千代鈴	磯自慢	茅ヶ崎	英ノ森	雷山	九勝二敗	九勝二敗	九勝二敗	九勝二敗
(初)	(3)	(2)	(3)	(初)	(初)	(初)	(初)	(初)	(3)	(3)	(3)



↑春日根部屋40年来の悲願がついに現実のものに。春日根親方の目にも涙が。千秋楽の打ち上げの後、朝日松理事長と喜びの盃を夜更けまで交わしたとか。

第154回本場所星取表

●●●●●●●●●●●●●●●●				●●●●●●●●●●●●●●●●				●●●●●●●●●●●●●●●●				●●●●●●●●●●●●●●●●																																																																			
若ノ嶋	横綱	春ノ翔	ヤヤ	美空富士	横綱	白閃光		佐賀ノ海	大関	剛勇山		千代鈴	関脇	出羽海		千代神	関脇	朱巻		英ノ森	小結	太昭		鳥帽子	前1	玄武		超	前2	生磯		大綱	前3	伊達		鹿若	前4	麒麟		季	前5	支那		鬼ヶ嶽	前6	支那		鉄甲	前7	支那		喜乃	前8	支那		喜源	前9	支那		源	前10	支那		氏海	前11	支那		鳥歌	前12	支那		六	前13	支那		六	前14	支那	

「だよね。」と鹿賀乃戸親方。一方の千代鈴は初優勝、そして大関昇進がかかる。この日は家族とのクリスマスが犠牲にして参加の春日根部屋。家族に事情を説明して納得してもらった上での参加のこと。それだけに絶対に負けられないが、「ここは何か勝たせてもらいたいですがね」と至って冷静な春日根部屋方。

十日目の取組みを前にして、朝日松理事長は「協会の立場からすると、千代鈴に2日も勝ってもらって優勝と大関昇進という結果を望みたいね。」と密かに語っていた。注目の